

授業科目名	国際法Ⅱ	選択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	国際法上の諸制度		担当者	青木 隆		
講義概要	<p>【概要】『国際法Ⅰ』において学ぶ国際法の基本を踏まえて、個別の分野、大別して (a)場所について、(b)人について、(c)武力の規制および他の分野に関する国際法の諸規則を解説します。具体的には、下記の各項目についての講義と質疑応答を行います。講義内容は、これが解っていれば日本の大学法学部生としてどこに行っても恥ずかしくない水準を保ちたいと考えています。</p> <p>【到達目標】 講義項目の各論から知識を得たうえで、国際法上の制度の発展や特質について一般的な理解を深めてください。</p>					
履修条件	『国際法Ⅰ』をすでに履修した（かまたは並行して履修する）ことを希望します。受講者には、「国際法とはどのようなものか」について漠然とでも構いませんのでイメージをもち、自身で「何が分からないか」が判っている状態にあることを期待します。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 特定の書籍は指定しません。</p> <p>【参考書】 有斐閣『国際条約集』等を活用して、条約文を教室において参照できると講義の理解が深まるはずです。その他の文献を含めて、資料に関する情報については初回の講義で解説します。</p>					
授業回数	内容					
1	ガイダンス：講義の概要、文献紹介、教室規則の決定など					
2	国際法の形式的法源、国家管轄権の配分と作用					
3	空間的秩序の概要					
4	領土とその変動					
5	日本の領土 《対日平和条約》					
6	南極大陸の法制度 《南極条約》					
7	海洋 その1 国の安全と秩序 《国連海洋法条約》					
8	海洋 その2 海洋資源の保存と管理 《 》					
9	海洋 その3 海底資源の開発 《 》					
10	空と国際航空制度 《国際民間航空条約》					
11	宇宙 《宇宙条約》					
12	国際関係における個人					
13	人権の国際的保護 《国際人権規約》					
14	地球規模の諸問題 《オゾン層保護条約》					
15	武力紛争と犠牲者の保護 《ハーグ陸戦条約、ジュネーブ条約、追加議定書》					
評価方法	筆記試験（自筆ノート、配付資料及び条文のみ持ち込み可）の成績及び受講態度により単位認定および成績評価を行います。					
評価基準	試験において講義内容を理解していることを示したと認められる答案には「A」、理解や表現に不足があるものはその程度に応じて「B」または「C」、設問または講義内容の理解が著しく劣るものはその程度に応じて「D」または「E」（ともに不合格）とし、これに受講態度（質問票への記述の量および質（試験の評価基準に準じる。）に基づく。）を加味して受講者の評点とします。					
その他	講義の進度は、受講生の理解度や希望を勘案して調整しますので、場合により『国際法Ⅰ』または『国際組織法』に送られる項目があり得ることをご了承下さい。					